

国道56号窪川佐賀道路 全線事業化を祝う会



5月26日、国道56号窪川佐賀道路全線事業化を祝う会を、黒潮町・四万十町の主催により黒潮町総合センターで行いました。

来賓として、尾崎高知県知事や県選出国会議員、地元関係者など約120名が出席しました。

窪川佐賀道路は、四万十町平串の四万十町中央ICから黒潮町佐賀上分地区の佐賀IC(仮称)まで、延長17・3km、完成2車線の高規格道路。現在、四万十町金上野地区から黒潮町拳ノ川地区までの片坂バイパス6・1kmを先行して工事に入っていますが、今年度全線事業化となりました。

式典終了後には、お祝いの餅投げも行い、多くの住民が参加。今後は、早期完成・延伸に向け、引き続き取り組みを進めていきます。

ラッキョウの収穫体験

入野地区は、

県内最大のラッキョウの産地。

5月22日、入野小学校と南郷小学校の4年生、合わせて31人が、

ラッキョウの収穫体験を行いました。



ラッキョウを食べたことがないという児童も多くなりましたが、「ラッキョウがいっぱいとれたらうれしい」と、楽しみながら収穫していました。このラッキョウは、学校で甘酢漬けにし、後日お弁当の時間などに食べる予定です。

また、入野小学校では、秋に植え付けの体験も行うそうです。



収穫したラッキョウは、ハサミで葉と根を切り落とし、ナイフを使って形をそろえます。

佐賀保・小・中合同の避難訓練

6月11日、防災教育アドバイザーである高知大学准教授・松岡裕美さんを招いて、佐賀保育所・佐賀小学校・佐賀中学校合同の避難訓練が行われました。訓練には、保護者や地域住民、町地域担当職員も参加し、合計約350人が標高約68メートルの裏山に避難しました。

午後2時5分に地震が発生し、1分間の揺れが続いたと想定。揺れが収まるまでは机の下に避難し、その後、裏山に向かいました。

佐賀小では、日ごろから各自の机に掛けている防災ずきんをかぶり、上履きのまま外にへ。佐賀中では、生徒も教師も全員がヘルメットを着用。お昼寝中だった保育所の幼児らは、パジャマのままです。



避難。1歳未満の乳児は、手押し車で移動し、山道では保育士が背負って登りました。急な斜面の避難路には手すりもなく、雨上がりでぬかるんだ地面は、落ち葉や土で滑りやすい状態。一番早かった小学生は3分20秒で避難場所に到着しましたが、全員が到着するまでには、約19分かかりました。

訓練の後は、佐賀中体育館にて松岡准教授の講話がありました。松岡准教授は、南海地震では揺れが100秒以上続き、余震や液状化、斜面の崩壊などで訓練通りの避難は難しいと説明し、「地震や津波について勉強し、自分の目で見て危険を判断しながら行動できるようにになってほしい」と参加者に呼びかけました。